

(平成 30 年 2 月試験研究業務月報)

試験研究課題：天然アサリ資源復活に向けた未利用資源未利用漁場の有効活用技術の開発

研 究

## 阿蘇海でアサリ稚貝の大量付着を確認

当センターでは、宮津市の阿蘇海において、殻長 10 mm の大きさのアサリ稚貝を養殖・放流用種苗として効率的に採集するための技術開発を行っています。その一環として、稚貝が着底する前段階の浮遊幼生を効率良く採集し育成する試験に取り組んでいます。

アサリ浮遊幼生が付着しやすいように網袋にロープを詰めた採苗器を昨年 11 月に海中に垂下し、2 月 9 日に回収したところ、殻長約 2 mm のアサリ稚貝が採苗器あたり約 11,800 個付着していることを確認しました。

これまでの試験結果から、アサリ稚貝の付着後にこのまま海中垂下しておくとホヤ類やムラサキイガイ等が大量に付着し、アサリ稚貝が全滅することが明らかとなっています。そのため今後は、効率的な駆除や付着防止の試験を実施して、大量のアサリ種苗を入手できる技術を開発します。



回収した採苗器



採苗器の中に付着しているアサリ稚貝  
(赤丸内)